文化庁月報

No.430 2004年

00	B. 1	partition Manne	B. I'	~~
8 8 h	N	B N	N	8 %
4 4 11	1 0	8 8	1 0	8 .

文化人の本音	河合隼雄文化庁長官対談	第28回	ゲストゆたか	はじめさん	ん●エッセイス	٢
沖縄から日	本を元気に					∠
長官コラム	文化庁の抜穴					9

連載	いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート 窓 鹿沼市立川上澄生美術館(栃木県) 22 芸術文化の活動風景 ① 歌田眞介(東京芸術大学名誉教授(文化財保存学)) 23 そうかこうすればいいんだ! 著作権教育実践事例 ④ 系統性をもたせた著作権指導 24 文化交流使の活動報告 ④ 25 伝連地区を見守る人々 伝建歳時記 ④ ハレの日の伝建地区の景色(長野県楢川村) 26 遺跡を楽しむ ④ 遺跡の中での縄文キャンプ 28 文化庁の地域文化振興施策 ④ こどもの文化芸術体験活動の推進文化体験プログラム支援事業 29	文化遺産オンライン試験公	質性 「文化遺産オンライン」試験: 地方におけるデジタルアー: 事例紹介	退産オンラインへの 退産オンラインの内	「文化遺産オンライン構想」	
	国語研究の最先端 ③ 「日本語の現在」をとらえる 最新情報の速報を目指して …30 風を呼ぼう、わが町に 登録文化財との歩み ④ 百万石の城下町 金沢の記憶をたどる歴史的建造物 …31 文化カニュース from 関西 関西元気文化圏の特色ある取組 ④ 世界に認められた人形芝居 …32 国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法一文化財鑑賞の手引き一億 埴輪にみる古代の武人 …33 日本の伝統美と好る人々 選定保存技術保持者編40 なんな紙 天上日間 (保存を表別と) …34	4開版への参加・参加	公開版システムの -カイブの実例 京都	期待	について	上している。
文化デュース	文化審議会(国語分科会)答申説明会 35 芸術文化(日韓文化交流)アドバイザー 第1回会合開催される 36 新進芸術家海外留学制度募集 37 九州国立博物館(仮称)竣工式 38 東京国立博物館 親と子のギャラリー文字・もじ・モジ 39 京都国立博物館	予定の美術館・	概要			
イベント案内	特別展覧会 神々の美の世界-京都の神道美術- 40 奈良国立博物館 親と子のギャラリー 古地図を読みとく 41 東京国立近代美術館 琳派 RIMPA 42 京都国立近代美術館 7ラジル:ボディ・ノスタルジア 43 国立西洋美術館 Fun with Collection 2004 建築探険ーぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館・44	博物館等	高野明彦・18 16	安達 淳・14 12	伝統文化課・10	

今月の 表紙

「文化遺産オンライン」 試験公開版の一部

新国立劇場スポットライト ……45 8月の国立劇場 ……46 芸術文化振興基金ニュース ………47

題字デザイン 桑山弥三郎

から日本を元気に



裁判と演劇

ることを決めました。 てきましてね。幸せのための法律が喧嘩 **ゆたか** 法律の世界がだんだん嫌になっ い切ったことだったと思うのですが。 内の二つ返事もあり一晩で沖縄に移住す からは大事じゃないかと思いまして、 とってからもパワーを受けることもこれ 沖縄というのは時が緩やかに流れている。 をきるのは容易ではありません。その点 たいと思いましたが、東京にいますと縁 した。定年後は、法律から一切手を引き の道具に使われる風潮が多くなってきま しかも非常にパワーをもっている。歳を 沖縄に移住するのは、

どこかにいってしまうとおかしなことに 本当は人間相手の仕事です。そのことが 裁判の仕事は、条文の問題じゃなしに

など、 ゆたか 河合 なってしまうんですね。

ですが、 を懸けて生きている姿をよく見て裁判 に懸けて生きるのかとか、その中で、 ものです。法に従って生きるのか、 ある意味では法律に深くかかわってくる 楽屋を訪ねたり、浅草の芝居小屋に出入 七代目松本幸四郎さんに可愛がってもら 河合 判事さんというのは法律の専門家 伎を見るべきだと思います。 りしたり、歌舞伎とか、大衆演劇、寄席 に言い出したほどの芝居好きでございま たいへん難しいと思います。 てないといけない。この両立をするのは であることに加え、 ったこともあります。そんなことから、 して、子どものころ私の家に遊びにきた 幅広く芸能に親しんできました。 私は司法研修のときにみんな歌舞 親父が四国金丸座の復元を最初 実は私の家系は三代続いて判事 いろんな広さをもっ 歌舞伎は、 命

伎や演劇、オペラ、映画などをよく見て おりました。 私は司法修習生のときから歌舞 今考えると非常にそれが良

本名・石田穣一、東京生まれ。 大学卒業後判事となり、1993

躍している。著書に『自分を輝 かせてみませんか|『沖縄に雷 車が走る日しなどがある。

> です。 との表と裏をいっしょに見せてくれるの い経験だったと思います。芝居はものご

いと思っています。 られているのかということも大事にした 中身だけでなく、国民にどういう目で見 す。法廷のあり方、裁判の演出という、 仕事に活かすよう提言したことがありま て、それを「裁判環境学」と名づけて、 常に通じるものがあるということを感じ ゆたか 私は裁判と演劇というものは非 ッションをもっとすべきだと思いますね。 いてあなたはどう思うかというディスカ ついてどう思うかとか、 河合 歌舞伎を鑑賞した後に、歌舞伎に あの生き方につ

家という面も強いですよね。 芸能でいえば俳優でもあるけれど、 河合 そういうと、判事さんというのは、

沖縄芸能を楽しむ

地柄で、 ゆたか っと演劇を伸ばしてもいい土地柄でない 演劇とか、音楽とか自然に入ってくる土 沖縄はわりと子どものころから 先生方も熱心にやられます。も

ゆたか 生がちゃんと教えに来るのです。 持ちが大切ですね。 能というのは、日ごろあたりまえにして ん沖縄は、格調の高い組踊とか、古典舞たく退屈することがありません。もちろ 能というのは祈りからくるもので、 あります。もっと芸能を楽しむという気 いるために、みんな大事に考えない面が ていますが、民衆の中に息づいている芸 でそれぞれ独特の芸能をもっている。 一つの島、 私は七〇の手習いで地元新聞社の開い 古典音楽などすばらしいものをもっ そうですね、小さい島や、 村でみんな違っていて、 まっ --つ

かりゆしウエアーという沖縄のアロハシ 教室の一同先生のご指示で、 ている教室で三線を習ったことがあるの ツを着て舞台に出たことがあります。 古典の音楽というのは、 そこに人間国宝の照喜名朝一先 一度だけ、 紋付き そして、

些

ているわけですか。

なくて、

、生活の中にあるものとしてやっいわゆる生活から離れたものでは

かと感じています。

楽しもうという気持ちがあふれている。 先生は、これが沖縄の正装だよといわれ 都会から来た人にわからせるような人が 河合。そういうおもしろさというのを、 がちですが、先生の場合はもっと芸能を とかく退屈したり、芸術鑑賞の形になり るんです。格調の高い芸能というのは、 袴を着て出るのですが、華やかなかりゆ いるといいですね。 しウエアーを着せて、舞台に上がらせる。 都会から来た人に格

> れてもらってね。 す」じゃなくて、沖縄本来のパワーに触調高いものだけ見せて、「これが沖縄で

ゆたか 世界に通じるものが出てくるんじゃない 彩な沖縄の芸能パワーを結集させれば、 のではなく、開かれた芸能を目指し、 うものを通じて、これまで沖縄の伝統と 支援をしています。これから先はそうい 育ってほしいという思いで、 作られました。私も踊り手がプロとして い」という民間のたった一つの常設館 現状を何とかしたいということで、「うど 光客が本物の舞台に触れることが少な 画が続々と出てきております。 たく形を変えてやるようなすばらし ペラとかミュージカルとか、組踊をま らの課題だと思います。 かと思う。それが芸能王国沖縄のこれか して守られてきた会派や流派に縛られる 現在、 若い人が中心となり、 ささやかな また、 多 が 観 13

リゼーションの時代ですから、 今はそのような時代ではない。 れて喧嘩してるのも一つの文化ですが、 河合 流派、会派などのように、 皆で沖縄 グロー 皆分か

全体のことを考えないとだめですね。 ですからニューヨークに行って なかったですか

ゆたか

ロンドンでシェークスピア劇を見に行こ ミュージカルを見ようという気持ちや

パリやウィーンに行ってオペラを楽

驚きましたし、衣装、色彩が美しい。本 れてまったく独特の芸能を作り上げてい い芸能をここに来て実感しました。 土にいたのでは知ることのできない珍し る。芸能の種類が多彩だということにも からも影響を受けて、いいものは取り入 聞きとれない。東南アジアや中国、本土 言葉は全部方言でした。セリフが一言も たんです。沖縄芝居を初めてみたときも、 りこむ余地がないところなんだとわかっ 沖縄に来たときに、日本本土の芸能が入 ゆたか はい、ショックでした。初めて

行こうというふうな土地柄にしていきた

アの芸能を結集した沖縄の芸能をに見に

しもうとか、そういう気持で、東南アジ

けに、

沖縄に来られて少しショックでは 本土で歌舞伎とかご存じだっただ

うふうにやったら絶対おもしろいと思い のも来る、中国や韓国の芸能も来るとい 沖縄だけじゃなくて、 河合 国立劇場が沖縄にできましたから、 いろいろ世界のも

緩やかな時の流れの大切 3

ゆたか 目も振らずに働きますから、 ことがたいへん得意です。働き蜂でわき けど、日本人というのは時を追いかける 現役時代から感じておりました 定年を迎え

> けて世界とスピードを競い合っているん 線が五分でも一○分でも早く大阪に着き って見ることが必要じゃないかと思いま でしょうか。もう少し物事をゆとりをも て暮らしの中にどれだけ役に立っている ですが、一〇分早く大阪に着いたからっ たいということで、たいへんな費用をか えば私が好きな鉄道一つとっても、新幹 たとたんに元気がなくなってしまう。

河合 ゆとりがなくなる。ユーモアがなくなる。 ちょっと生活スタイルを考え直さない ここまで経済的にも豊かになりましたし、 つけ追い越せというのはよそ見ができず、 きかったんじゃないかと思います。 いけないのではないでしょうか。 ことの一つに、「追いつけ追い越せ」が大 日本人がなぜそうなったかという 追い

ゆたか て感じるのはこのごろ地方に少し元気が にも良い所はあるわけですが、 流れているというだけならば、日本本土 ているという土地柄です。時が緩や たけれども、まだまだ時が緩やかに流れ 沖縄は、ずいぶん本土化しまし 全体とし かに



り暮らすというのもやるべきだと思いま に、三週間くらい都会から離れてゆった 思います。例えば小学生は夏休みなんか また帰るといいですね。 かってもらって、一か月間暮らしてみて 夏休みに久米島のようなところに預 私は時の流れってすごく大事だと くたびれてるんでしょうか。

切り替えが大事

めました。そして、判決を書くのに半年 さなきゃいけない、 きるのならば、大抵の事件は二枚ですま うな大事件の判決がわずか二枚で処理で その判決文がなんと二枚なんです。それ 短かったと思います。というのは、明治 遅い。おそらく私の判決文は全国で一番 ごく長い。神様でなきゃわからんものを ゆたか を見たときに、日本の存立を左右するよ 時代に大津事件というのがありましたが 人間が代わりにやるものですから決断も 一年もということは一切やらないと心 日本の判決文というのはものす とにかく仕事を集中して早く決 ということを心に決

の仕事はできません。

見られがちです。本気でやったら長時間

滅多にいません。趣味のために仕事の集 断し判決を書く。そしてパッと切り替え いない人はどこか手を抜いているように 人は熱心であって、朝から晩まで働いて がありまして、朝から晩まで働いている 何時間したかということで評価する傾向 と思います。特に日本の場合は、残業を 中力が高くなる。これは、日本人の四〇 るからといって、仕事が疎かになる人は 私はよく言うのですが、趣味をやって 河合 その方が集中力が高まりますよ て趣味の汽車に乗りに行く。 五〇代の男の人に、すごい有意義だ

本を回ってみようということを始めまし それから好きな鉄道でなるべく細かく日 線の片隅から見たときにショックを受け、 鉱山を訪ねて、 から汽車に乗り始めました。初めは足尾 車に乗るのはたいへんでして、 ゆたか 学生時代は戦前戦後のこと、汽 ゆたかさんは本当におもしろいご趣味 日本中を鉄道で回られたんですよね。 公害のすごさをローカル 任官して

> 界に没頭します。日本をよく見よう、 きは、仕事のことを一切考えず、その世 るまで新線ができると乗りに行きます。 りました。今でも路面電車、地下鉄に至 それからまた一〇年かけて私鉄を全部乗 た。二〇年以上かけて国鉄を全部乗り、 ではないかと思います。 これが私の仕事と趣味を両立できた秘訣 れで東京に帰ってきたら仕事に集中する。 えながら日本中を回っておりました。そ かく肌で感じようということばかりを考 ローカル線でゴトゴトゆっくりと行くと

ゆたか 河合 通しているような気がしますね。 性格も、家族も違いますが、心構えは共 たい皆さん両立させておられる。生活も れますね。芸能とそれ以外の生活もだい というのはたいへんパワー た別のエネルギーで、 能性をもってるんだけど、仕事だけや エネルギー源になっていると思います。 てる。ところが、遊びのエネルギーはま ている人はその可能性の一部分だけ使っ 人間の心というのはものすごい可 そういう意味では沖縄の芸能人 人間のものすごい をもっておら

今こそ 文化力

化的なパワーを秘めていると思われませ 国っていうのは各地域において、相当文 河合 鉄道で日本中お回りになったから よけい実感があると思いますが、日本の

飛行機、 化をもち、 国だと思います。 ゆたか。日本というのはやっぱりすごい インター 水準も高い。それが新幹線や 世界にない特色ある文 -ネッ の発展のみが重

> 見えなくなってきますね。 要とされると、 文化的なパワー が隠れて

なくそうと言っているのですが、それに とが本当にありがたい。 を今沖縄で盛んにやってもらっているこ 文化が活きてくるんだと思います。それ すが、今のような時代にこそ、各地域の 文化で日本中を元気にと言っているので はゆたかさんのご体験が活かされますね。 だから私は今必死になって、 河合 それが一極集中を生むんですよ。 一極集中を

ゆたか 河合 方が多いわけです。今年「美ら島沖縄大 ています。 信するように努力しようと思ってます。 折を見て沖縄のことを本土の皆さんに発 生活、ものの考え方、扱い方、パワーなど、 も、私が魅力を感じている沖縄の文化、 使」に知事から任命されました。これから だけしか見ず、沖縄を本当にご存じな 、ました。 今後もご活躍されることを期待し 本土の方は沖縄のことをうわ 本日はどうもありがとうござ

世界に飛び出せ、日本映画 世界に飛び出せ、日本映画 静岡県立美術館 静岡県立美術館

明治学院大学教授・四方田犬彦【文化交流使の活動報告】 著作権の意識を育てる教育活動【そうかこうすればいいんだ!著作権対

著作権教育実践事例]

洋館で遊ぼう―長崎居留地まつり―【伝建地区を見守る人々―伝建歳時記―】

日本人の国語意識世論調査から見る 【長官コラム 文化庁の抜穴】 井上ひさし 小説家・劇作家 ◆長官対談◆

言葉の変化と日本人の意識 国語に関する世論調査 【座談会】

【文化庁提言】

平成一五年度 【解説】 ・梅津正樹、 西原鈴子、

橋本五郎

芸術情報プラザ【文化庁の地域文化振興施策】

[国語に関する世論調査]の結果について

ほか

歌舞伎床山・鴨治歳一 【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】

·文化財新指定(美術工芸品関係国際フォーラム

編集後記

ータルサイト)としての「文化遺産オンし、また、文化遺産の電子情報広場(ボ で二つの「まとめ」を文化庁長官に提出含む審議を一一回と、もの凄いスピード 平成一五年四月の初会合以来、ライン構想」です。 ライン試験公開版」を今年四月にようや 産情報化推進戦略会議」は専門調査会を 、「文化遺

担このごろです。

悪戦苦闘している、

について、今後も、関係機関とともに推 遺産をデジタル・アーカイブ化する施策 まずは、日本の貴重な財産である文化 作成等、課題はもちろん山積です。 術館・関係団体等の参加拡大、英語版の文化遺産オンラインの運営、博物館・美 公開し、 しかし、 この特集となりま これからが本当の始まりで

を図り取組を進めている

今回の特集は、

文化庁と総務省が連携 「文化遺産オン

> 風待ちの港町 気仙沼の歴史的建造物 「風を呼ばう、わが町に-薏苡花射との歩み-] 「風を呼ばう、わが町に-薏苡花射との歩み-] 【国語研究の最先端】 奈良二〇一〇年塾 一京文化圏の取組 原西元気文化圏の取組 地域住民による縄文食研究活動への道【遺跡を楽しむ】

文化庁月報 7月号 (通巻430)

平成16年7月25日印刷・発行

編集——文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行――株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16 電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666 URL: http://www.gyosei.co.jp

印刷所―ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円 年間購読料 6,480 円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先 (株) ぎょうせい営業部広告課 電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン) ©2004 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。

文化庁では、ホームページで、文 化庁に関する情報を幅広く提供し ています。ご意見、文化庁月報の 感想などを、ホームページのご意 見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス● http://www.bunka.go.jp